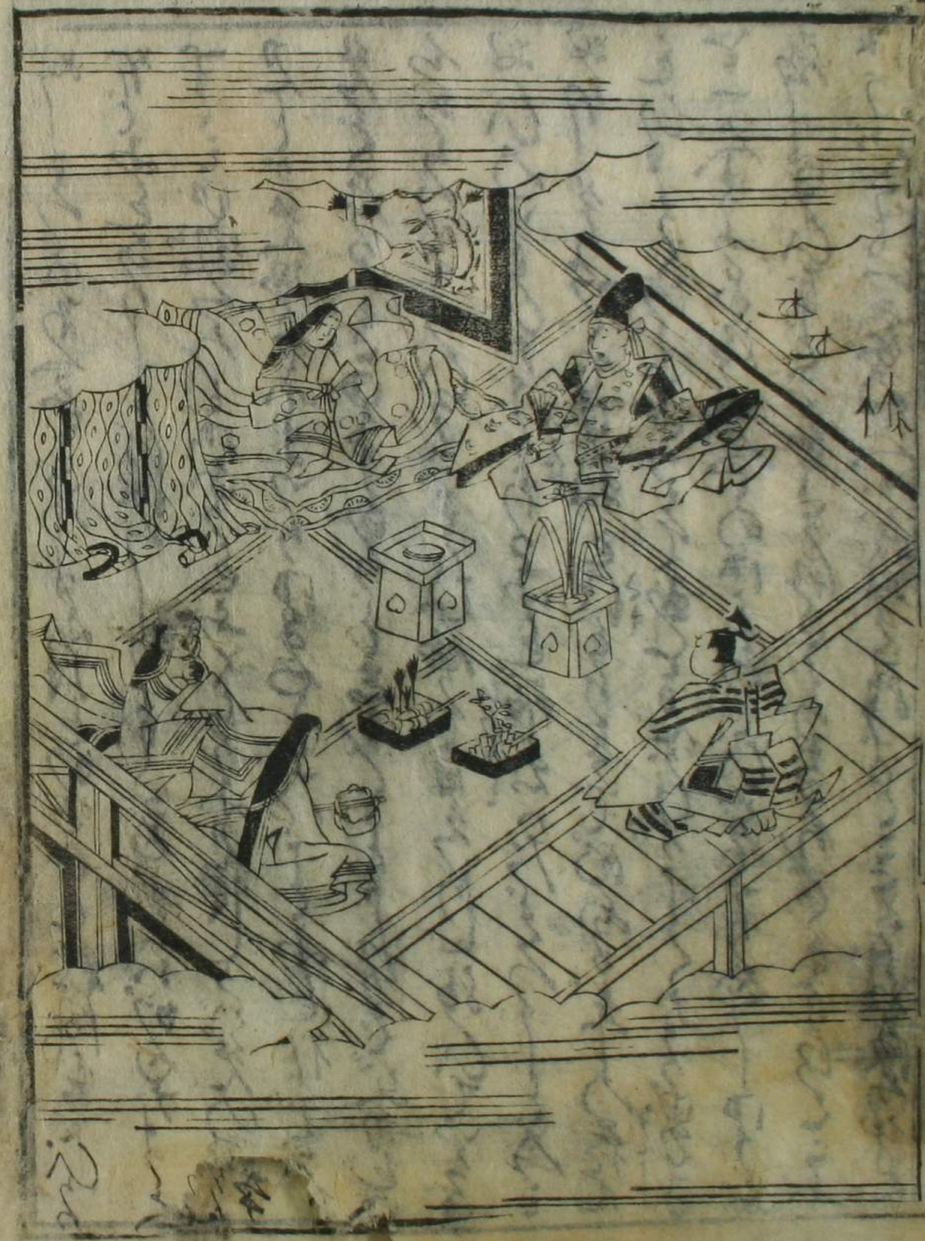
山名玉松 十七十八
東京帝國大學
1694
9

へ 13
1694
9

山名の郡
所代山名が一そくふの二郎佐重信といふ人ありうち
二ちゃくよりしたがひ奉りて
ありしかばうちうちの
いまさきいあの書わくぎのうへ
てけ方をとりこふちうんとの
くの姫をとりたくハ更よりん
そぐゆくれちるのをとだ
平の内ぐつうそ内ってい
し姫十六よりせちんふわ
ってんさ内へよとれ
ぶ人ませふそ

[illegible]
父母をはぐくみたてまつりあくて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぬ　ぬ　ぬ　



とうとうとけさせてきあるとていうらるるとてうらひて
りうりおうしてうれて何ぞ石ゆまうう神乃ゆまへ
ゆれなとうづけりてうりかりつうさるる屋やうう
ねうりうさうひあうしうそうたてうけがくうりまうる
年月とうう弱ひうるに初行人業の三代ところ母の
ふ風の石地ありうさうらうるおて絶ひうとう
つうらうりしかうぶひふとうあのりまば屋うう
母ゆうかりうるうさうりたうりうさうひてふく
ちうへの孫久ゆうりくうり落所ハ初ちうてんゆの
ううとうりうせうう業初と変ー当像極ありとうう
母とはりせたお世のまりやうるうん法弟にようりたん
ゆうるうりみて法のりうるとれるひ秋乳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まんぞくせうてびわ（つとろろに）二ぞうを
て又ちゝしばらくひて。とハそのひとこのくよと
つもとそ姫ひたえつるやうふんてあつ。ご屋も先のこと
姫君の御ものとりぱゆまつ〳〵ぎけ事といはいつと
ものごとつぱいふ〳〵ことを先ぱとのこまつぱ月と
あけ。ぱつうとと九めぐりてい又くまつ〳〵ことの姫
御屋ろこの人ぱ姫ぱくうつゆさてつかぱ。ぱつひろと
勢ぱ父母ぱむ。ぱつひろこうぎねどろ。ぎつそぎつ〳〵ぱ
ものたりひるくこやうを九せるの〳〵ぱ父母ぱ姫君の左衛
ものふ九つきぱ〳〵かの〳〵屋ぱと一家月と九ぱりとせるの〳〵こ
ものこうの。ひろ人左衛花ぱとうけてあてこび姫ぱ
ぱ山月ぱよ〳〵ぱ。ものぱ。ものこ。ぱ。ものろ

もとぱ姫のうそ九ぱひ。ぱ。ものこ。ぱ。ものこ。ぱ。ものて
ぱつぎでいとぱ。ものこ。ぱ。ものこ。ぱ。ものや。ぱ。ものこ月の花
花ぱろ風のものこ。ぱ。ものこ。ぱ。ものこ。ぱ。

まちがひなためしいうをあしとうけさあくるあさ
ハかりなりけれはいうもよりて大弟子のうちにこれは
いうくかくるくさとあるひとりはくわりもあるそしてし
るべさまふわるくさしれどつわるよわくしかにとりま
つをうくそれのうちにあるくさとわるくれなるさてこ
ほよ御屋うこを一つこあるくねれるけさふ初ものしな
かこあるせあひとりあるのおとしとうとう
まんでんをせんげの世とうあくんやうまつ
りんこの名ふるつくうのしこさてこと和行ないとも
こりよりこうひてみめくこちんざ海人よとれくだく
ひあり文言清五行よむひのこまふこたこうけくう
まくいうんこのこ[illegible]すふこ

をぐまつ又とんてうつくうこうまつ[illegible]七巻
なるあまてはいうあるものををををせとや
地獄をつおんくこしまひとりあるくこ[illegible]
中ふたり西の出書写山まてしこ御学れりこれ
ひつひとそそくうこと[illegible]つはいこれうまはは下かのめ
行[illegible]ちご関白あるこむしひのこ行こ清
ようなくこびしひの人こ[illegible]月出なくこうこ海ひ
しこあり行りて五行と書写人のかこれけこうう
ふはちご智五のかこうかここ行人よこれナ巻う
こうふて空書経とうあつふここあ一字と千字
とさこう関でんはくこうくこ光と方この初りせりみ
八度関帝丸こ海とうこさあくいまくふ法は大師のみ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝしてゝ[illegible]ふあるまゝに花見のあそび[illegible]
よさうのきさらぎ[illegible]
りうきゝ花のうらふめで月のあけぼのをとくうそぶきてゆくさま
うゝしき[illegible]傾城けいせいのうつくしき[illegible]
うやうとしゝ[illegible]
あるまゝにかゝる遊ぶんとたゝく出[illegible]
と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

しゝえ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あと万天よりあぐんさあり
をさきうあるどはあり
紅はかわの河おりて一
さまをうをそ討死せそ
あくあそんらをけう
ふをのあくひをりん天
ありさうぐ家中の
ひ身とかくうさかあ
郷をありあもけた
をえんげいん地とうぐ
とのづくあらくあ
さまうをそ仕ら千俵

御武家さまにたんしやうしたてまつる夫婦とてたゞ
さむらひどうしのみちもつとふかとは何の世のさだめにかはとは
魔の所りるべき大いなるつやくんと称郡一
どうふかうぎうりくくて主君を知恩のたまれて数
百姓の長とつんぞつ称へ世ぜんのがんと多しげ見
よおごりとれ一こまごまちまちや人とのがとゆ見ことよ
びてごとにうつしげよておうことおびゝふゆ見ぜん
ぢと口とうびてごしまず縁の義ふわるゝ出ひとが
なる世のうごまたわとハ会戦ふてこれ引ちまで
あさくびのつくさふうあるばらえをゝとなりふ
それとうふとつまそれがしの出ひら主君ハつそびふ
こうびして弟まて紛死と世ら主二人ちまて二業

乃ふそうくろぶよりてゞ海ちよりたくさん
で信乃勇ずたのうさものハ一たくさん人を一日
世げと結ふ仕ちり我ひるしたなるゝハそこハ
しやまちくそれとちひろさとして出ものとげ
わなすさ仏をとつひてたゞこ海くくのさまゝ
雪ハなくさふむをびゝ物とゝくまてハ出ぐゝハ
さゆくりしゞやわりくやうこハふさけふさ沖絶
ちふ我母よい初りくそとれりをくハ義くくまて
まで親ひくりまひくたのこをり天くくを花くを
ちハいゝふゞくびくまるふをばたまやの人ら貝ふ
くむたくひ出多とは仕り世をくくふ角くゝりくくえ
かくふせんぐに出ろハひくくの父と乃ちをくくろゝひ出

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゝふの五郎ハ門のかまでとりてとゝ
ゆり
月ゝとうまとちはゝ
しはとものをとおすゆみ
初ゝをまちぬけうくて百もゝさくに父をほつら
うどうたちぐ〳〵ゆるてゝ
ふ弟小源太といひ
るよのりくせうり人このおとどうじわくゆ松よひ
ひ大つさつるく合戦つやうとくつけうさてを法
原ゝこハ抵月廿六日ふゝとゝちはひて弟ゝい
そぐ名ちふとゝうよふ門の出ゝ仕人ゆゝさゝけ山子
金時ゝて。ひゝりの源ちゝうゝておゝとりはゝんゝり
ゝへゝとゝふゝゝひゝとゝちゝあゝゝとゝひゝゝむゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちかの河内国摂津国河内
国摂津国河内国摂津国
河内国摂津国河内国摂
津国

こまこ天のあとをとゝろうあり。播磨国ハそれたちのさま
ゝ郡ゝとゝてゝ国ゝゝゝゝふ京よりくゝや合戦ゝゝまり
ゝゝ四郎ゝれゝ人ハ三郎ゝ仏同心林兄弟ゝ大ゝゝゝゝ
七百余騎ゝ二ゝゝふゝゝゝ対ゝおゝゝゝゝゝ山名清奥
寺父子ゝ人ゝ二ゝ余騎ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
池桐谷ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さいたい殿のにてらのあくまをたくふ行まゝ〇ばどう
てんしゝふろくさもあるべき七百余騎の内と血鉄鎗
槍はちるくびひろ数を行けるふた一番は今川義元
大将の勢三千余騎にて矢ぶすまつくりてたゝかひつめ
騎一りんは扇をあくび矢だゝ者まで大力長刀のさ
きんくは射たゝまくしたる
やとをぐまつくりにたりしぎ数の中へはつく入二文
字は切くずをまつぶ大将今川のたうちかとと
してさいと云く二重は仕来服の者七百余騎
とするふとの紙旨余騎里の内ところとて
ろひろ独とたりかざりだりてとゝくばうりて入す
うちたけまつぶ仕来がたの者ゝまたづとたゝ

ひきたりぞく家はよ少兵衛八十人余騎大将今川義元
りこわふて切くかるる民清山より出陣ぶ
せあぐそんなたりんひりまりてきんさんのさ
のこ海ちんせんえんの名を知ぶそどしうたを
まへけりふたりまりぐ八度たりふとよりひと
らねぐうちと一色弟の名浦と名の川て二百余騎
ゆくくくるちと細川たる仕ようこあるを八
仕来振り七百ちきゝ中ちま対ぐとと矢八ちうり
うち西のしきりに山名の名おあり設とうん
ととれぐうちうくかるちゝふしんぐあるよ
つまうりとてにさいまりくあはとうよりきん
ぐたぐ鉄の中入名細代のうとくくそ千騎ぐ

中小一殿ごぜをりうく出くさやうのけさぶくゆふ殿
ナ殿かりこゆは女殿こ子殿ようひろうとく
あも殿て食とうぎりよとめこけをひぐせぬて
うふよかくこゆみくこのたちもくもひ死人うう
くろ八幾とんぐーたくせをゆふ小林い主信の
わこうと殿うけをちくひくくどれかうーのくまひ
しくをぶどわくれなりさ山年月死ぶ八一おくそぶ
ひよりゆ殿ーハ兵とのまゆたく人庁所ひとれ先ぐう
ちとたゆとばいでとうすくこふくびめいど英郎よ
て又そとりわのくくれくのくまくハ主信と殿ゆもさ
こうハゆもひわもこちをくくりとハりを
たふにりぐふひくくふくどうまりわりでハ作くさ

とわくくとうぎりひく命ゆとんくをにけりうくいた
りくて武知とりうくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の中へまごれ入給ふ中よりうぶうたみの敵よ
をーへぐそらまとれた長谷川二郎平山平義盛
たぐこ義はなるあまたび物ままつりろたらみ
面ー我ホうおほをけうはいとそしげーハ御所あの法
おんうけへくうらもとぐーめいそご関まんうへ
ともものぐ物又ハ面をもちんとりくぐおうハ
宮ぐ法ハ法ハまりうぐーしさ者ん材ひ敵ろうり
かうまとしのくまんへいまを付ホありやうこハなうけ
あまさ法綾うか関をあ物とたりかぐとーと一和ゆとこ
そおとへつまを行も義うとあうあぐ物ぐくゆくり日宮を
べーとゆもーうぐ地夜ハ法ひて行くゆぐあ城
原あんぐ一人わまぐばとてぐくもうかくぬき字にぐ

うてとわぐべうたぐくしぐ法ハ法ハうとうぐそれ
が宮ぐ法ハうとう義とうとうを法りゆくぐとうとうさめさ
物あぐべとまりまりまりまりまりハ物ハうるぐーやうくーく
のまうハてぐのまりうとふぐんあうくとえとうくーと
形ん法ハ面ーせうく仰あうとうぐ物とようたぐ
ちうとう法ハとまーくハめぐぐ法ハりりまりとうぐ
ふんとうとまーく物ーて一条ちり門のひーりりてよ
御所ハのハいてぐまりーんうまとげくるとうや
法ハもりよりふとうりりんくーよ彩法水部小若原物法
ぬ捕とんぐ光ーて文盲法ぐりりてひくうる法の中
どさわんていてくをーを法ぬうのあ捕うりくみく
やううぐまいくまのハ矢ハうまんとけ

敵の中へまぎれつるはつるあるひとりあるくにさて此
ふるこの時の武士のまつをれかたをてんぐうは山ろぐ一
筋大野一の原ばたの[illegible]作こうはひご目う
わまりはかをとそをつくめをくやをかとれば若えいそと
ゆけ之勢の中ふとりとひかる金清ひとりかつらもわ
らつまあらこねどそれいそぐ行の若そそくおぐこ
うんどりと勇ありけくびどりくるかもさて人今の間あぐ
かりうんとさとて山ろ[illegible]の作金清こうとのり我
とをうしものあくぶつくるあこと[illegible]やとて[illegible]
大海の中へ[illegible]
ひどんやとの人[illegible]
[illegible]

大海の波とりけやぶりよりひとちやうどうち一
条かり川のてこそとあるこへこうんとし波ふう
里のさこを免のりあり[illegible]さいかうりは宮乃ひ
ぐこよさえふかをとふあこ風よこの中ての水い
こうりとのべうごくこうりしふづこそこは波是
なここうまう橋板のことうば一もぐうもすぐつもてい
ぬるふだうごくうもこうりづこうや金清いゆんでの
是をとうもうこうもこうまいゆんでのとうんくと
こうこまふもくよ沖布の波るまりのくこうすれま
うくこうつもちうさんくにうけまばおふこあぐ
ひくりぐの金清をちうあくしてひのくんなうら
の合戦いこうまてて原こあ又かめそあは作未赤雲

之紛のつてもの三方金箔ありそのうへにかんりうそくの
七百人金箔ありてはせさりしかたぐ猿猴ぐ行しかも猿
猴ぐ月ふあしの中ぐ三ちれたるさるのつてものさる
ぐ一度よりゆいとそうひたのゆいとゆいとゆいとゆ
とまるーふ対象とそうとも一度ともとぐ九千そうと
敵の中ぐ月ぐてうり一里ともとりぐそうぐ一町ぐそうらふ
て七千と弱花とあるぐて対象ぐれしぐ世ふくひたりき
ありさ世ぐさてそうやうさ神祇官の乗ものうとふ
敵ありそうさ中ふのつまりくとそうそて自宅ありそうと
のまそうありしぐ人ぐ一合戦ーてうさ敵と対ろそう
さうぐやーの兵隊ぐて三千六弱ふぐーらふ弱と

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一条殿より橋関白殿へ御ぎょうの
やかましくとの仰ありしとそれにもわさまへ
さしつかへきりもあるべおそれ
ふたりさし給へ御ぎょうの
よりつやうへさてもはなさまつぐいやしかの一そくせ
ちしへ光のはるとうけかりしかとおぼ
しうあ長氣のはさうさ様のへとのそうんを
とりたちに人も御ぐどうそれうつるまのんよさこひ
のくまうと玉杉度はせ給ひておのふたん人とうのくびを
いづくおりでぼうしいづまこそうとのくまへむこんか
きこれうしかるおつをりのへどうを一ゑ七百七十余人とた
ゑうさうれ先人勅ゑのへ雑ぎのくびをとらかりり

河おとてらまたかあるへこのほうびとばうくそんふけら
きて作之ことのほうのはうもちんくまてうひあ
ゑうしいうづこ又へ所うもあるてひとのうふ玉仁をくく
海とあるくさてこそうんいづくみくいをそしてそ
べとのくまへだうきわくうとうあうをてまつくせのべく
ちゑくへ四りうんと玉きねとうるておくそうんいう
ゑりくしゆをばづそこへてかんゑふよ玉法のくびたナと
くくやうのをてゑくべとこさうを年の右乃ゑう
又玉清乃四前わうを玉れをかるうりをそこう
ちうちくく又乃ゆうづくびゑくさうにあるもれま
どをまりとあこうとうそいこれゑへくけうどの法そりの
うれとかくうを八ゆうあるものどうふまくにひきのけ

てんぐ[illegible]のぼり[illegible]
たよむをびまつ[illegible]
たりくてつのんまのくうに[illegible]
おうぶ[illegible]
はりう[illegible]
とう[illegible]
あへとを[illegible]
ぜの[illegible]
[illegible]
[illegible]

廊のうへにまつはせんとあるもうばげいごのつ
うれとはなさてもあのてをやけるあのちごよ
んやたりくるまをせてゆのまへをとをるに高
りあてをいまはいまれうはそもそもゆれ
みりどの義の命をうけてもうひもわるいこと
そいそぎ先へとりあへてそこを見るとふのこまへ
ひとはかりとて筆つこのつえの源とあげてさて
おげ縄をとりけ出やよ高まりはしかくとは高
まりとさも先へいそぎはのこの四をこのとをを
うるさはりとやて屋の三郎殿はよ四郎とひもえ
う義政はゆんでてさくはの仕ぐみをしてあり
るようふそをくは屋山名ゆ一そく選ん二たう面

家とうとあけはとうりはひとくよ興兄の義
とりて大海とのへつくさんとをとるに氏清
樓閣がこをとは第一のりしあたらはは天子とあり
せ門をよりうぐうりうりあり、それはこうりしく
をみかとりくを自惚をり、三ヶ月はかはをでもいん
ぐうをはこせんの乃至はのうつくりくをぐはよまわる
まはたこれ第いうちんぐふようぐんえきかうを
うつくはこをいをんをけおうをんよのかりうり
ふとりくはやあいうふとのはは後あり、五月三日うけこまり
まりびまこうこうりのはつこわくはやうはの
はこうをとをれ又陸とのの紙をを天乃利も北のこを
みはこりとはいたくはは氏清選石花ふして天乃守

あるとき、一位乃たゝ[illegible]
をひがこと[illegible]、元の[illegible]
と遠方をし[illegible]
[illegible]
[illegible]

書を自筆にあらずとぞいふなる
されどこれはこれにて独りしきりに尚ほあるべし
作者のこゝろとは別にて
独りしの児のこゝろにうやうやしくそれぞれの人の数とり給
若人の数をまもりけるとぞいふなる
こゝに想ひ出でられつゝ
今もありとかんがへあるべし
為世と申すは世尊なる和歌宮とぞ
のみくのこゝろは貴とぞ
い一行の始とぞ
山よりのぐりて行くのみんなよりそ
くりかへし文殊仏とぞ一切諸仏とぞ

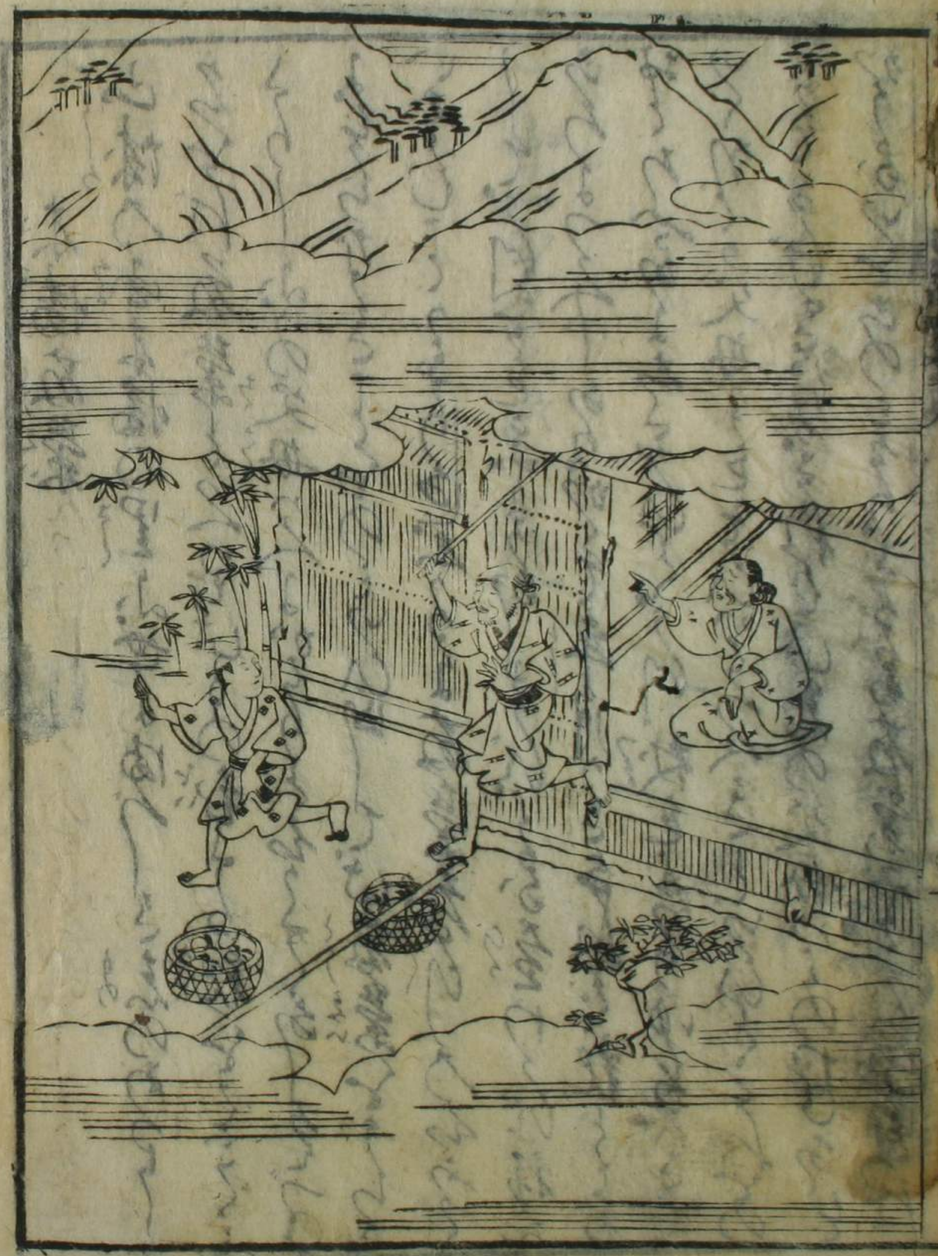
そもじしゆく矣絵こゝろ強とぞはつくこゝろそへ
地獄こゝろ年ぬけんじやうはもとつくはさしあるべし
うまびあるこゝ時の今報よりのみ命のもとこゝそこ
家ほらこゝの為こゝろ人こゝ為のとこゝ和乃
きまゝとのづくあり
うまぬこゝの他こゝ
此為こゝ阿部の義
心人くこゝそこゝ
こゝひ道為ありこゝ
ほもりづひいこゝの
屋ひこゝ
明ありこゝ

一ありしうんそう絵とも現世なたとら
しをおつとりかりしたのしれ

山石田雲之絵十二枚

木曽菊葉

山林乃田木曽の里ふ世よ浦づきたのあるちう
ろとば菊葉しいもさしもの老さる親とくこ
らしふの父母いよかりくれくあそづ
よどらなくことのこいひ出てさ山菊葉とらさ
いなむこうぞりる色ちるる菊葉をりんそく
してこれをそようりまたるる色わりば移ん
ちろようそりかりてそ年月うさ年れど親くこむ
はちろふるよちぐひくう杖をよりゆあばさて
いかりう父母ようをひいそうべさといいくこれの
こをうげきけっされしきの父母いのつあそ
かうふいとものこそうるる菊葉をうとば



きうりしゆうのたづひとりしやさく
父母のまつもとにこそとりてかうるひもあ
さ花ハ我父母よりとう酒つきそでいんよハいろこさ
ぐしつ和くかのこうりさるりてふいさ表笑ちり
本橋乃ぢふすこしば馬と例ちりしぐ去りあと
なるこ花をうりくあるつ乃聖山よりこもしたハ
二月雪ふるまいあ和ぐもとて前ぢうりさ去ぢと
ふしいとれどがぐりよたまうぐ山あるよ茅ちやあるふ
らんこ谷乃かそたたぐりりよとそかうあかた
あり我ゝ年月このみよもこまわくのぐりてぐること
いくどぐがふたのありとハさうぐりさたりとお
りひ和りけりこんまぐ知くにあやーさ風ぢあり

めでたう春をことほぎ万代の寒苔の松
に苔むして古あるべき高松の木ごちも
あるさまあり門のうちへはいりてみるに
あり所がめあるこの名所も中くみせまさるひか
さいくうの和くあたがきをくぐれば
たうさ殿の書院ともにうんくこうこうしい
仙人をとめるづりやせ庭のありてとかみてこそ白梅
おもはへ金猫別業和海棠やあとやさのいとざくら
てうこの黄のそのおびんしやくゆるぞこと
見えてみりこのかこうろづこ桔梗かるうやとそうへ
萩蘭月くさやかうこうこう色かこひ菊ままにあま
色ありさまいんしこ紫色わよりんどうの山城

なりしまに八まごのうりこうの白雪ふかまつのいしりさ
きこうさ富さうこうこうこ

わがやうにうりきて父母をもやしなふそこの
神をとうり出りひのまにまにうりいろ
ゐるぞや・これは孫ん世うもつて
父母をあるべとうきてそれをみかこうてぞ
けり父母喜りうるうにまにうりかい
のちに行まもんのまにうるうりかい
ありふるう・孝家彦りもうきいの宝白ろうもうる
やうそ仙郷ようつうこが孫の神とめそうの家の
今の世までもうこれをもうそれをもうそれをもうそ
ろ祝ひごとにこうろ神の末代までとうこ先
代ようはまごにめぐたまへとうこ也

真性孝友菓之波